

全国からのべ470人参加

沿線大行進 6・7住民総決起集会



国鉄新潟

NO. 668
発行
09・6月29日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

沿線大行進 直江津駅をスタート

朝八時、約七〇名の参加者は黄色の在来線（北陸・信越・大糸・ほくほく線）は地域の宝、と書いたプラカードや在来線（北陸・信越・大糸・ほくほく線）は地域の宝を守ろう！と書いた桃太郎旗を持ち、直江津駅前広場は、所狭しと完全に私たちに埋め尽くされました。



県は早く
明らかにして欲しい

大平実行委員の司会で始まった出発集会、岡山実行委員長（元妙高高原町長）は、新幹線建設の関係市町村の同意を国と結んだ当事者として、苦渋の選択をした、妙高高原が最後まで反対をしていた

裁判員制度の 仕組みと問題点

その6

裁判員を辞退できる場合（裁判員法16条8号）

- 70歳以上の人
- 地方公共団体の議会の議員（ただし、会中に限る）
- 常時通学を要する課程に在学する学生
- 一定期間の間に裁判員や検察審査員などの職務に従事したり、裁判員の職務を行うこと又は裁判所に行くことが困難な人

- 重い疾病や障害により裁判所に行くことが困難である
- 同居の親族を介護・養育する必要がある
- 事業上の重要な用務を自分で処理しないと著しい損害が生じるおそれがある
- 親族の結婚式への出席など社会生活上の重要な用務がある



らどうなっていたか、そのとき県が最後まで責任を持つ、と言った。まだ県がはつきり言わないのはおかしい、いつときも早く明らかにしてほしい、と挨拶。

その後、直江津・頸城の会代表の決意表明、石川、富山、地元代表が表明したあと、横断幕を先頭に市内をデモ行進、今日の最終地点である妙高高原駅に向けて出発していきましました。



途中春日山駅、高田駅、脇野田駅では建設真っ最中の新幹線を見たり、約百二〇年前新潟県で始めて建設された信越本線に私財をなげうって協力した長谷川八郎さんの説明を受けながら、中継点の新井に向かった。

新井で昼食、おにぎりとトン汁に舌鼓、休憩の後再び出発。



新潟・長野が 集結百四〇名

関山駅を回りながら妙高高原メッセに到着、ここで宣伝カーを先頭にしてきた、長野隊と合流、地元市議の激励挨拶、実行委員長、長野隊代表から挨拶をもらい、最終地点の妙高高原駅まで元気に出発、妙高高原駅集結集会。

約百四〇名の新潟隊、長野隊との集結集会だ。地元妙高の会・豊田幹事長の司会で始まったが、長



野からのリレー隊がまだ到着しない、どうしよう、主催者挨拶、大糸線・北陸線を守る会、長野県実行委員長からの挨拶、長野県議からの挨拶が滞りなく終了！というところで長野からのリレー隊が到着、演出したわけでもないのに、これほど劇的に到着するとは！最高に盛り上がった瞬間です。

妙高高原は全国的な観光地、観光客も感心しながら注目です。

新潟日報・発行



北陸新幹線開業で経営分離

在来線 存続と充実を

2014年度末に予定されている北陸新幹線長野・金沢間開業と同時にJRから経営が分離されることになっている。信越線など、在来線の存続と充実を訴える「住民総決起集会」が7日、妙高市の妙高高原メッセで開かれた。約200人が参加した。

地元「妙高と信越本線を考える会」など、妙高、上越、糸魚川の沿線3市の市民団体でつくる実行委が主催。前日の6日は、JR直江津駅から妙高高原までの駅周辺を進行した。

上越地域の在来線は、



新幹線開業後も在来線を充実させようと開かれた「住民総決起集会」=7日、妙高市の妙高高原メッセ

新幹線開業と同時に県や沿線3市で今後設立する第三セクターに経営を移譲される予定になっているが、地元負担の規模など具体的な経営形態がいまだに示されていない。

集会では、尾崎靖弘・実行委副委員長が「平山簡知事は県が責任を持つと言った。県は早く方針を示してほしい」と強調した。長野県の佐久民主商工会の遠藤会長は、新幹線が佐久平駅前の開発の影響で、在来線沿線の商店街が衰退した事例を報告した。

最後に、在来線存続・

で会 高集 妙住

る集会宣言を採択した。宣言は近く、国、県、沿線3市に届ける。

参加した妙高市二塚の公民館館長小林昭さん(右)は「観光のためにもローカル線は必要」と話していた。

交流と共同の絆を 一層強めていく

天気予報では、あまり期待されなかった大気。まずまずだ。第一部の住民総決起集会は定刻の九時二〇分、地元の和太鼓奏者による演奏でオーブン、直江津頰城の会、在来線を守る三市連絡会代表の挨拶の後、長野新幹線開業で街が隆盛していると思われがちだが、新幹線駅周辺だけでなく他の地域は衰退する、いわゆる入トロー現象に見舞われている左

久平商店街の代表から佐久平の特別報告、その後の集会宣言



交流と共同の絆を 一層強めていく

私たちは、在来線を守る全国の皆さんにも訴え、交流と共同の絆を一層強めていくことを誓い、集会宣言といたします。

実行委員の奥様の元気な声で提案、一〇〇名の全員で確認。第一部のアトラクションは地元実行委員の司会で始まり、和太鼓演奏、地元合唱団の合唱と続き、いよいよメインイベントの始まりです。

東京から地元赤倉温泉に嫁いだホテルの女将さんのピアノ演奏が始まった。パッパ、ペーコーンやジャズ演奏で奏でられたアンコール曲はショパンの『夜想曲』だ、子供たちも聞きに来

- 1 信越・北陸本線、大糸線、ほくほく線の存続・充実
- 2 地域の振興・発展
- 3 『停車』『工事費負担』問題の関係市民の納得のできる解決
- 4 利用者、地域、事業者等利用に関する協議制度の確立

住民総決起集会

ていたが、物音一つ立てずに静かに聞いていました。トランペッターの演奏が観客の皆さんが思いもよらないところからの出場。心憎いばかりの演出です。

総括はまだ後になります。三市の各団体が一緒に取り組んだ初めての集会でした。直江津頰城の会が発足してまだ一ヶ月あまりにもかかわらず、積極的に取り組んだこと、妙高の会代表自ら先頭に立ち、資金カンパを取り組んだこと。素晴らしい取り組みでした。



編集後記

六六八号は並行在来線の大きな取り組みを特集し、編集しました。直江津支部の高橋さんからの報告です。詳しくは、『国労文化』で特集されますので、発行されましたら参照してください。

身近な話題や出来事など、地本編集委員会まで送ってください。よろしくお願います。

国鉄新潟の六六七号の記事で本部主催組織拡大経験交流集会の日程について五月十四、十五日と記載しましたが、五月二十四、二十五日でした。訂正し、お詫びいたします。

(地本 教習部)